**動物の数－複数形－**

**1.　小単元の目標（評価規準）**

様々な言語における単数／複数の機能について理解する

1. **関心・意欲・態度：**他の言語や文化が自分の言語や文化とは違ったふうに機能しうるという事実を受け入れること。自分の言語／文化と、対象となっている言語／文化の間にある類似性と差異に対して興味を持ち、理解する（したいと望む）こと。
2. **思考・判断・表現：**観察や分析の手順（いくつかの要素に分けたり、分類したり、要素同士を関連づけたりすること）を活用したり使いこなしたりすることができる。言語や文化の現象を分析する際に、帰納的アプローチを用いることができる。
3. **知識・理解：**国と言語を混同してはいけないと知る。自分自身の言語を構成する体系は、数ある体系のうちの一つの可能性にすぎないということを知る。ある言語（/母語/学校言語/）の機能を描写する際に用いられる区分は、必ずしも他の言語でも存在する区分ではない｛数、性、冠詞...｝ことを知っている。

**2.　教材観**

言語の複数形の規則を発見させる教材です。「英語」の教科ではAn apple →Two applesという複数形の作り方を学びますが、その規則が英語のみにあるのではなく、世界のさまざまな言語において、「単数／複数」が区別されていることを学びます。

**3.　小単元①の展開**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 資料 |
| 1. ウォームアップ：日本語における複数マーカー
2. 様々な言語における複数マーカー
 | （英語の複数形の復習をしてから）日本語には複数形はあるかどうか尋ねる。1. 児童にペアを作らせ、ペアごとに児童用シート１を配布する。何もヒントを与えず、「神経衰弱ゲーム」表を完成させるために、空欄に絵を描くように言う。最初の段階では、それぞれの言語名は言わない。2. 教室全体で、一緒に答え合わせをする。このとき、「どんな絵を描いたらよいか、どのように分かったか」を説明させる。児童に発音してもらう。3. 「神経衰弱ゲーム」表の中に出てきた言語が何語だと思うか、児童に予想させる。（トルコ語、エスペラント、アイマラ語、フランス語、インドネシア語）。これらの言語が話されている場所について、世界地図をみながら確認し、次の質問をして、調べる。「これらの言語を話しているのはどのような人でしょうか」「どんな特徴がありますか。」といった発問をする。（クラスで児童用シート１をカードに切り分け、「神経衰弱」のゲームをしてもよい） | 児童用シート（B4に拡大したもの）音声資料世界地図(PPT) |
| 3. 単元の振り返り | 口頭で感想を言ってもらう。 |  |

**備考**

１）日本語の標識にはたとえば「ども」「ら」「がた」「たち」などがある。（私ども、子ども、野郎ども、私ら、子どもら、あんたら、先生方、奥様方、皆様方、私たち、子どもたち、あなたたち、猫たち、等。）しかし、複数形の標識は義務的ではない。（２人の子、3人の先生、101匹わんちゃん 等）このような言語は日本語だけではない。（中国語、朝鮮語など。）しかし多くの言語では、複数形の標識が義務的である。英語もそのうちの一つだが、今回は英語以外の言語を経由することで、複数形を表示する言語があり、そのルールは様々である、ということを学ぶ。

２）エスペラントとは、ポーランドのルドヴィコ・ザメンホフが中心となって整備した人工言語。世界共通語を作ることを目指して整備された人工語として、現在、最も認知されている。使用者は全人口の１％にも満たないが、世界中に散らばっている。

アイマラ語はペルー、ボリビア、チリなどで話されている少数言語で、ボリビアとペルーでは公用語のひとつ。ただしこれらの国では教育ではスペイン語が徹底されているため、アイマラ語を話す人は特に都市部では少ない。

フランス語は、フランス帝国主義の影響により、現在でも世界の多くの国で公用語または準公用語の地位にあり、世界2億人以上が使用している。フランス語圏にはヨーロッパでは例えばフランス、スイス、ベルギー、モナコ、ルクセンブルグがあり、北米ではカナダやアメリカのルイジアナ州、また北アフリカ（モロッコ、アルジェリア、チュニジア、モーリタニア）、サブサハラアフリカ（カメルーン、コンゴ、マリ、ニジェール、コンゴなど）さらにアジア・オセアニアにも広がっている。

トルコ語はトルコ、キプロス、マケドニアの公用語。ラテン文字（ローマ字）を使うが、もともとアラビア語やペルシア語からの借用語が非常に多い。